

ぶつう はいた  
肩こり痛に

TRADE MARK



ノーラカ

解熱鎮痛薬

第②類医薬品



配置期限

効能・効果

- 1) 頭痛・歯痛・神経痛・肩こり痛・月経痛（生理痛）・関節痛・咽喉痛・耳痛・外傷痛の鎮痛
- 2) 悪寒・発熱時の解熱

用法・用量

大人（15才以上）……………1回 1包  
 11才以上15才未満……………1回  $\frac{3}{4}$ 包  
 7才以上11才未満……………1回  $\frac{1}{2}$ 包  
 3才以上7才未満……………1回  $\frac{1}{4}$ 包  
 1日2回を限度とし、なるべく空腹時をさけて服用する。服用間隔は6時間以上おくこと。

成分・分量（2包中）

アセトアミノフェン…600mg プロモバルビル尿素…200mg  
 エテンザミド……………500mg 無水カフェイン……………200mg  
 添加物としてバレイショデンプン、リン酸水素Ca、無水ケイ酸を含有する。

注 意

1. 次の人は服用しないこと  
 (1) 本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人。(2) 本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人。
2. 服用後は乗物等の運転をしないこと
3. 服用が適さない場合があるので、服用前に医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること
4. 服用に際しては、説明文書をよく読むこと
5. 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管すること

副作用救済制度 ☎0120-149-931

製造販売元



1包1g 3包入

250

増田製薬株式会社  
 奈良県橿原市川西町429  
 お客様相談窓口 0744-27-4381

 使用上の注意

 **してはいけないこと** (守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなる)

1. 次の人は服用しないこと (1) 本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人。(2) 本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人。
2. 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないこと 他の解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮静薬、乗物酔い薬
3. 服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと (眠気等があらわれることがある。)
4. 服用前後は飲酒しないこと
5. 長期連用しないこと

**相談すること**

1. 次の人は服用前に医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること  
(1) 医師又は歯科医師の治療を受けている人。(2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。(3) 授乳中の人。(4) 水痘（水ぼうそう）若しくはインフルエンザにかかっている又はその疑いのある乳・幼・小児（15歳未満）。(5) 高齢者。(6) 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人。(7) 次の診断を受けた人。心臓病、腎臓病、肝臓病、胃・十二指腸潰瘍
2. 服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるので、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること

| 関係部位  | 症 状         | 関係部位  | 症 状     |
|-------|-------------|-------|---------|
| 皮 膚   | 発疹・発赤、かゆみ   | 精神神経系 | めまい     |
| 消 化 器 | 吐き気・嘔吐、食欲不振 | そ の 他 | 過度の体温低下 |

まれに下記の重篤な症状が起こることがある。

その場合は直ちに医師の診療を受けること。

| 症 状 の 名 称             | 症 状                                                         |
|-----------------------|-------------------------------------------------------------|
| シ ョ ッ ク<br>(アナフィラキシー) | 服用後すぐに、皮膚のかゆみ、じんましん、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、動悸、意識の混濁等があらわれる。 |

|                                                              |                                                                                                            |
|--------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 皮膚粘膜眼症候群<br>(スティーブンス・ジョンソン症候群)<br>中毒性表皮壊死融解症、急性汎発性<br>発疹性膿疱症 | 高熱、目の充血、目やに、唇のただれ、<br>のどの痛み、皮膚の広範囲の発疹・発赤、<br>赤くなった皮膚上に小さなブツブツ（小<br>膿疱）が出る、全身がだるい、食欲が<br>ない等が持続したり、急激に悪化する。 |
| 薬剤性過敏症症候群                                                    | 皮膚が広い範囲で赤くなる、全身性の発疹、<br>発熱、体がだるい、リンパ節（首、わきの下、<br>股の付け根等）のはれ等があらわれる。                                        |
| 肝機能障害                                                        | 発熱、かゆみ、発疹、黄疸（皮膚や白<br>目が黄色くなる）、褐色尿、全身のだる<br>さ、食欲不振等があらわれる。                                                  |
| 腎障害                                                          | 発熱、発疹、尿量の減少、全身のむく<br>み、全身のだるさ、関節痛（節々が痛<br>む）、下痢等があらわれる。                                                    |
| 間質性肺炎                                                        | 階段を上ったり、少し無理をしたりす<br>ると息切れがする・息苦しくなる、空<br>せき、発熱等がみられ、これらが急に<br>あらわれたり、持続したりする。                             |
| ぜんそく                                                         | 息をするときゼーゼー、ヒューヒューと<br>鳴る、息苦しい等があらわれる。                                                                      |

3. 服用後、次の症状があらわれることがあるので、このような症状の持続又は増強が見られた場合には、服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること 眠気

4. 5～6回服用しても症状がよくなる場合は服用を中止し、この文書を持って医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること

#### 〈用法・用量に関連する注意〉

(1) 3才未満の乳幼児には服用させないこと。(2) 定められた用法・用量を厳守すること。(3) 小児に服用させる場合には、保護者の指導監督のもとに服用させること。

#### 〔保管及び取扱い上の注意〕

(1) 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管すること。  
(2) 小児の手の届かない所に保管すること。(3) 他の容器に入れ替えないこと。(誤用の原因になったり品質が変わる。)  
(4) 配置期限を過ぎた製品は、服用しないこと。